

明王院（福山市）

ここが明王院/この辺りは、13世紀から16世紀初頭にかけて、草戸千軒と称される港町であって、交通の要所として大いに発展していたと云う

[video](#)







歴代福山藩主の庇護の下に存続した大寺院である



本堂と五重塔が国宝



港町は後に河川が運んできた土砂が港に堆積して衰退、さらにその町の遺構も、昭和初期に行われた芦田川の川筋を変える治水工事により破壊されてしまったが、長年にわたる遺跡の発掘調査によって、草戸千軒町遺跡としてわが国を代表する中世の集落跡が解明されている



草戸千軒町遺跡について

法音寺住僧が名付けた草戸千軒

法音寺住僧弘伏が寛永六年（二六三九）に、福山藩主水野勝成に「農民が草土村は在家千軒で、大風雨の時大汐が満ちて寺院と民家が悉く流れたと書いている」と提出した。これが「草戸千軒」の番古い記録である（吉田彦兵衛（二六五三～一七三三）編纂「水野記」）。

草戸千軒の発掘とその意義

草戸千軒の発掘は、考古学史上新しい段階を築き、日本の考古学史を彩ることになった。以前の考古学は、縄文時代、弥生時代、古墳時代を主に研究していたが、草戸千軒の発掘は中世を対象にし、日本の中世発掘のさきがけとなり、瀬戸内など現市街地の地下に埋もれた遺跡の発掘のきっかけをつくり、京都や鎌倉をはじめ全国各地で中世都市遺跡の発掘が始まった。川の中にある遺跡を本格的に発掘する、しかも、中世の町の町全体を発掘するという、日本の考古学では例のない発掘であった。

発掘調査の経緯

一、二次調査	昭和三六・三七年 (一九六二～一九六三)	出土遺物の年代や層位的な堆積の確認などから、鎌倉・室町時代の遺跡であることが判明	福山市教育委員会
三次調査	昭和四〇年 (一九六五)	三叉路や堀内などが明らかになり、これまでに調査例のない中世の集落跡が姿をあらわした	福山市教育委員会
芦田川 計画発表	昭和四二年 (一九六七)	芦田川の一級河川への野格による河川改修計画と災害復旧計画の発表	建設省
四、八次調査	昭和四三・四七年 (一九六八～一九七二)	河川改修に対応して小規模ではあったが調査を継続	広島県教育委員会
河口埋没に 関する基本計 画公示	昭和四六年 (一九七一)	遺跡下流の河口に可動橋を建設するため、遺構が中州が水没し、調査が不可能になる	建設省
調査所・ 研究所を設 置	昭和四八年 (一九七三)	調査研究機関を設置して大規模な発掘調査を開始	広島県教育委員会
調査完了	平成三年 (一九九一)三月	遺跡部蔵中州 約六〇〇〇㎡の調査を完了	広島県教育委員会

発掘調査の成果

草戸千軒は堀と堀に囲まれた町で、出土遺物から見ても、鎌倉時代後半の三世紀中ごろに集落の形成がはじまり、室町時代後半の二六世紀初めに消滅した町と考えられる。遺構の変遷は①数少ない鎌倉時代の遺構は常福寺（現明王院）に近い中央部西側中州で建物などを集約的に検出している。町は東に拡張されており、②室町時代前半期は中州全域で遺構の数が急激に増え、町が発展していく様子がうかがえる。③室町時代後半期には中州の北部から中央部にかけて町割りが見え、④室町時代末期以降になると、遺構はほとんど見られなくなり、町が急激に衰退していったことがわかる。検出している遺構の大半は、寛文三年（一六七三）の洪水以降に作られたため池や杭列であり、町として機能していなかったことが知られる。

日常生活用具や信仰生活を語る木簡などの遺物、農具、工具、漁具などとともに商業生活を示す木簡などの遺物の出土から、この集落が庶民の町であったことが分かった。特に、備前焼、亀山焼など近隣（岡山県）の焼き物から瀬戸焼・常滑焼など遠隔地（愛知県）の焼き物、また中国の電泉窯の青磁や興徳鎮窯の白磁が出土し、物資の流通・集散を兼ねた港町でもあったことも推定できる。

広島県立歴史博物館の設置

貴重な遺物を永久保存するため、昭和四九年（一九七四）に福山市が広島県に資料館（明王院敷地、昭和五二年（一九七七）に博物館建設の陳情を行う。平成元年（一九八八）三月に建物が福山市西町に完成し、同年一月に草戸千軒町遺跡の出土遺物を中心とした広島県立歴史博物館を開館した。

にかけたの町の地として、歴史（16）7月1日に設

左岸（市街地側）にあったと推定さ。なお、⑤草戸の

町遺跡の中は市街地、市街地と推定さ。なお、⑤草戸の

草戸大橋

の町（草戸）

▲草戸千軒とレゾ

●発掘風景

遺跡発掘調査風景

第24次調査区全景

●出土品

飲食具

青磁碗・鉢・白磁碗

土師質土器 碗・杯・皿

甕（備前）岡山県

●農具

鎌

●遊具

羽子板・独楽

●書

硯

●商業

木簡

貨幣

●祈禱

人形

●遺構の変遷

鎌倉時代末～室町時代前半

室町時代後半

●復原

実物大復原

町並模型

●マークは写真提供：広島県立歴史博物館 ●マークは図資料：国史資料館・広島県立歴史博物館・草戸千軒町遺跡出土品

草戸千軒とフィレンツェ

この明王院の本堂には、あちこちに独創的で斬新なデザインが見られる。たとえば、外陣の輪垂木天井は日本で考案された中国風天井だが、ほとんど他に例がないものだという。

おそらく、鎌倉末期の京都では、すでに社寺建築のスタイルが決まりきったものになっていたのだろう。こうしなければいけない、という暗黙のルールができていたのかもしれない。

そのなかで、野心のある匠たちはそれに飽き足らず、なんとかしてその枠を打ち壊したい、と思っていたことだろう。

そこで、彼らは明王院の伽藍新築の話を聞きつけて、草戸千軒と呼ばれるこの地続々と集まってきたのではあるまいか。ここでは、がんじがらめになっていた伝統や様式から脱して、先駆的で革新的なものを創造することが可能だったからだ。

少し大きさにいえば、あたかも中世のフィレンツェのような都市の息吹が、この山陽地方の瀬戸内一帯に沸き立っていたように思われる。

五木寛之著

「百寺巡礼」より

石段の上に山門が見える

 video



明王院縁起

明王院は大同二年（八〇七年）弘法大師の開基と伝えられている。
古来当寺は観音応現の霊場として信仰された。

平安時代より江戸時代に至るまで、この寺の山下には、門前町として繁栄した草戸千軒という港町があり、遠くは朝鮮、中国、南方諸国とも貿易した。

江戸時代初期までは、西光山理智院常福寺と称した。

本堂（観音堂）は鎌倉時代末、元応三年（一三二一年）の建立で和様を主とした折衷様式の現存中最古級の建物である。

昭和三十九年国宝に指定された。

五重塔は南北朝時代の貞和四年（一三四八年）の建立で

純和様である。

現存五重塔中五番目に古い貴重な塔である。

昭和二十八年国宝に指定された。

その他、山門、庫裡、書院、護摩堂、鐘楼、五輪塔、七重石塔等

の文化財指定物件がある。

庭園は、江戸時代初期に作庭された平庭として見るべきものがある。
なお、本尊十一面観世音菩薩像は、平安時代伝教大師最澄の作と伝え、重要文化財に指定されている。

平成二十七年九月吉日

明王院現住 弘雄 敬白

山門/広島県指定重要文化財/慶長19年(1614年)の再建らしい

[video](#)





みょうおう いん
明王院
Myooin Temple

国宝

本 堂 1964年 5 月26日指定

五重塔 1953年 3 月31日指定

National Treasure

The main hall : Designated on May 26, 1964

The five-storied pagoda : Designated on March 31, 1953

묘오인 절 국보
明王院(国宝级)

明王院は真言宗大覚寺派の寺院で、もとは常福寺といい、大同2年(807年)弘法大師の開基と伝える。室町時代には「クサイツ草出 常福寺」の記録が残り、芦田川の中州から掘り出された「草戸千軒町遺跡」は、常福寺の門前町でもあった。江戸時代初期(1655年頃)に水野家3代勝貞が、城下からこの地に明王院を移して現在に至っている。

国宝の本堂は鎌倉時代末期(1321年)、五重塔は南北朝時代(1348年)の建築で、平安時代初期の本尊「木造十一面観音立像」は重要文化財に指定されている。その他にも、県市の文化財指定を受けた建物や仏像が数多くあり、市内でも有数の文化財の宝庫となっている。

묘오인 절은 진언종 대각사파의 사원으로, 원래 이름은 조후쿠지 절이라고 하여 807년에 고보대사(弘法大師)가 창건하였다고 전한다. 1655년 경에 성밖에서 이 곳, 묘오인 절로 옮겨 현재에 이르고 있다. 본당은 1321년, 5층탑은 1348년의 건축한 것으로 국보로 지정되어 있으며 문화재가 많은 곳으로 유명하다.

明王院是真言宗大覚寺派的寺院,中世称常福寺。据传,由弘法大师于807年开山建寺。1655年,从城下将明王院迁移到此,一直保存到现在。正殿建于1321年,五重塔建于1348年,被指定为国宝级,这里已成了历史文物的宝库。

Myooin Temple, of the Shingon sect, was formally called Jofukuji Temple. It is said to have been founded by High Priest Kobo Daishi in 807. It was relocated from an area near the castle to this site around 1655.

The main hall and the five-storied pagoda, built in 1321 and 1348 respectively, are preserved as national treasures, and the pagoda is the oldest of its kind in the Seto Inland area.



山門についても言及されている

明王院

明王院は、真言宗大覚寺派の寺院で、807年(大同2年)弘法大師の開基と伝えられています。

江戸時代初期までは、西光山理智院常福寺と称し、1655年(承応4年)頃に水野家三代勝貞が、城下からこの地に明王院を移して常福寺と合併、中道山円光寺明王院としました。

本堂は、鎌倉時代末期の1321年(元応3年)の建立で、折衷様式としては、瀬戸内海沿岸では最も古く、全国でも最古級の建物です。

ご本尊の「十一面観音立像」は、平安時代初期の優作で、国の重要文化財に指定されています。

五重塔は、南北朝時代の1348年(貞和4年)の建立で、純和様の姿をとり、全国の五重塔のうち5番目の古さを誇り、民衆が建てた塔として日本最古です。

石段を登り詰めたところに東面して立つ本瓦葺、切妻造の山門は県重要文化財指定です。棟札によれば1614年(慶長19年)の再建です。現在の山門は新旧二様の建築材が使われ、旧様は軸部の柱・腰長押(なげし)などに見られ、室町時代の様式を残す雄大な門です。

その他、庫裡、書院、護摩堂、鐘楼など県・市の重要文化財指定の建物などがあります。

境内散策は自由にできます。一部の建物内部は不定期で第三土曜日に公開しています。公開日は「明王院を愛する会」ホームページでご確認ください。



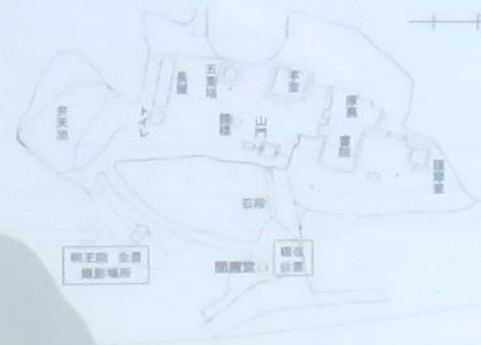
明王院 全景



国宝 五重塔



国宝 本堂



明王院 境内 案内図



県重文 山門

本堂/国宝/鎌倉時代後期、元応3年(1321年)の建立

[video](#)





和様に禅宗様と大仏様を取り入れた折衷様/外陣と内陣の間は、中世密教仏堂の典型である格子戸と菱欄間によって厳密に区切られている/外陣の構架は虹梁を前後に渡した上に墓股をのせてさらに虹梁を架け、天井の一部を唐破風のような曲線を付けた輪垂木天井としているようだ(その写真が載っている)

本堂(国宝)

本堂は、内陣墓股(かえるまた)の墨書から1321年(元応3年)に建立されたことが分かっています。1964年(昭和39年)に国宝に指定されました。

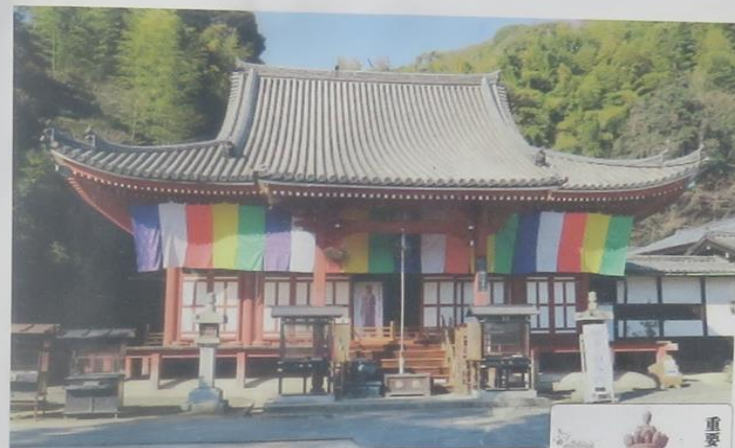
全体的に和洋の姿をとり、細部において唐様、大仏様を組合わせた瀬戸内海沿岸では最も古く、全国でも最古級の折衷様式の建物です。

本堂内部は、密教本堂の特徴である格子戸で厳格に仕切っており、格子戸の奥側が内陣と言われ仏様の空間です。外側が外陣(げじん)と言われ、拝礼する空間です。

内陣には、厨子に納められた国の重要文化財指定の十一面観音立像(秘仏で33年毎のご開扉、次は令和6年の秋)や福山市の重要文化財の仏像が安置されており、外陣の天井には、日本で最初に寺院に用いられた輪垂木天井(わだるきてんじょう)があります。

内部は非公開(不定期で第三土曜日に外陣のみ特別公開)ですが、明王院住職の本堂案内や仏像をご覧になりたい方は、下記の「ガイド」(動画)及び「仏像」二次元バーコードをスマートフォン等で読み取ってご利用ください。

特別公開は「明王院を愛する会」ホームページでご確認ください。



輪垂木天井



ご本尊 十一面観音立像
次回御開帳 令和6年
秋

写真撮影：明王院を愛する会

参考文献：広島県立歴史博物館編「明王院 その歴史と文化」

本尊の木造十一面観世音立像(重要文化財)は平安時代前期に刻まれた檜の一木造

[video](#)



外陣が少し覗けた！



格子戸と菱欄間



禅宗様独特の大きく反った屋根

[video](#)





妻飾は二重虹梁大瓶束/中央に連子窓が開いている







日本古来の建築様式である和様を基調としながら、長押ではなく貫を用い、建具も鎬がついた大仏様の棧唐戸



組物は出組/中備は和様の間斗束に大仏様の双斗がのる



アップで見たところ



貫が突き出た木鼻や、出組の拳鼻は禅宗様

[video](#)



アップで見たところ/台輪が廻っている



向拝部分



禅宗様の粽柱の上に台輪が通っている/棧唐戸は藁座で受ける



足元の礎座



手挟みと鼻隠しの絵様



こちらは五重塔/国宝/南北朝時代、貞和4年(1348年)の建立/純和様





文化財愛護

国 宝

明王院 五重塔

火 気 厳 禁

HITACHI

塔頂に据えられた相輪の伏鉢には「積一文勸進小資 為五重塔婆大功(一文勸進の小資を積み、五重塔姿の大功を成す)」と刻まれていると云う/これは民衆の浄財によってこの五重塔が建てられたという事らしい/その相輪伏鉢の写真が載っている

五重塔(国宝)

五重塔は、最上階の相輪伏鉢の刻名から、1348年(貞和4年)に民衆が一文勸進の小資を積んで建立されたことが分っています。1953年(昭和28年)に国宝に指定されました。

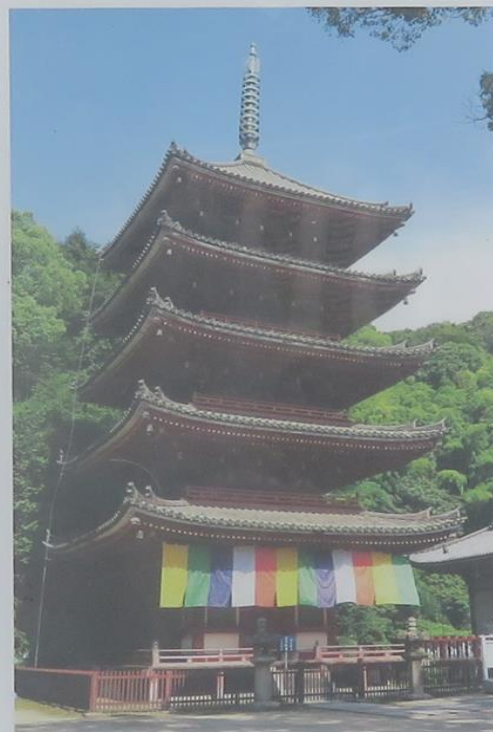
純和様の姿をとり、全国の五重塔のうち5番目の古さを誇り、中世密教寺院における現存唯一の遺例と言われています。

民衆が建てた塔としては日本最古です。

本塔の心柱が初重の天井で止まって浮いており、全国的にも珍しい例です。浮いているのは地震対策で、心柱制振と言われ、東京スカイツリーにも採用されています。

初重内部には広島県指定重要文化財の弥勒菩薩と不動明王、愛染明王の坐像が安置されています。これを囲む四天柱には金剛界の諸仏諸菩薩などの密教世界が広がっています。

内部は非公開(毎年11月第三土曜日に初重のみ特別公開)ですが、明王院住職の五重塔初重案内や仏像をご覧になりたい方は、下記の「ガイド」(動画)及び「仏像」二次元バーコードをスマートフォン等で読み取ってご利用ください。特別公開は「明王院を愛する会」ホームページでご確認ください。



写真撮影：明王院を愛する会

参考文献：広島県立歴史博物館編「明王院 その歴史と文化」



相輪伏鉢

初層内部には広島県指定重要文化財の弥勒菩薩と不動明王、愛染明王の坐像が安置されているらしい

[video](#)



初層には四天柱を立て、心柱は初層天井から立っているようだ

 [video](#)



中央間は両開きの板戸であり、脇間には連子窓を嵌め、周囲には擬宝珠の付いた欄干を巡らしている



組物は三手先斗栱/中備は間斗束









右手に芦田川が流れる/この地は陸上交通の大動脈「山陽道」、海上交通の大動脈「瀬戸内海」、それに内陸との水上交通「芦田川」の交差するところに発達した平安時代の終わり頃から鎌倉時代、室町時代まで栄えた中世の地方商業都市であった



草戸・川西歴史街道 散策路

22 八十八ヶ所霊場

草戸の歴史を愛する会

長和・草戸新四国八十八ヶ所霊場のうちのひとつ（九番）。多くの石仏は草戸町の草戸山の中に見られるが、ほとんど移動されており、順番どおりの場所にはない。

八十八ヶ所は人間が持っている八十八の煩惱を消滅させて心身の救済をする場所である。

長和・草戸新四国八十八ヶ所は四国を縮小させたもので一身の祈願は四国巡拝と同じ功德がある。長和・草戸新四国八十八ヶ所はいつ誰によって開基されたか、その証は何もないが、江戸時代の中後期ではないかと推察する。

一番（霊山寺）二番（極楽寺）は日光寺境内にあり、五番（地藏寺）が明王院境内にある。草戸から瀬戸を回り八十八番（大窪寺）は日光寺（地図番号 1）境内に戻る。



二番



八十八番

2013 年 10 月

この事業は、福山市協働の
まちづくり基金を活用して
実施しています



二番と八十八番



海音寺前に所在する地藏菩薩



草戸・川西歴史街道 散策路

17 地蔵さん(地蔵菩薩)

草戸の歴史を愛する会

草戸上ノ丁には二箇所之地蔵さんがある。一箇所は日光寺(地図番号1)山門前の地蔵さん(写真)であり、もう一箇所がこの地、すなわち法音寺前である。この地の地蔵さんは江戸時代の文政七年(1824年)作である。

釈迦の入滅後、56億7000万年後に弥勒菩薩(みろくぼさつ)が出現するまでの間、現世に仏が不在となってしまうため、その間、衆生を救う菩薩であるとされる。お地蔵さんは最も弱い立場の人々を最優先で救済する菩薩であることから、古来より絶大な信仰の対象となった。

一般的には「子供の守り神」として信じられており、よく子供が喜ぶお菓子が供えられていた。



日光寺 ①
山門前の地蔵さん

2013年10月

この事業は、福山市協働の
まちづくり基金を活用して
実施しています



地神



草戸・川西歴史街道 散策路

17 地神さん(上ノ丁)

草戸の歴史を愛する会

地神さんは明治20年(1887年)ころに出来た。

春分、秋分の日以最に近い前後の戌(つちのえ)の日に、五穀(米、ムギ、アワ、キビ、豆)を供え、社稷(しゃしょく)を祀(まつ)る。社稷とは、土地の神(社)と五穀の神(稷)である。

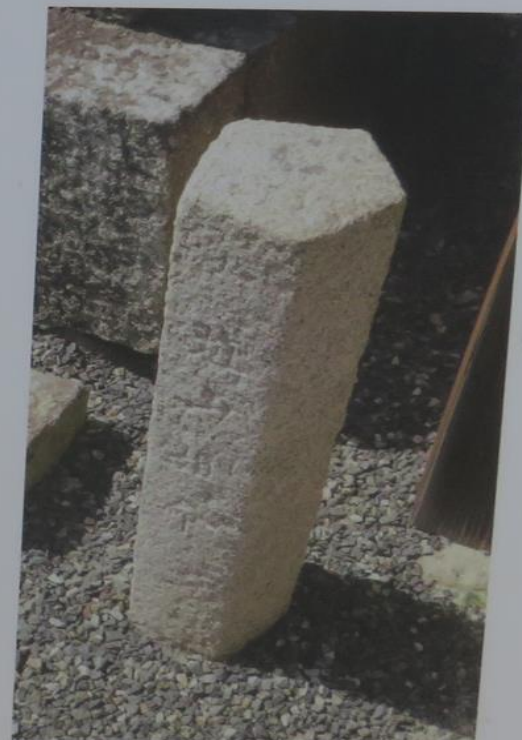
丸みを帯びた自然石に「地神」と彫られた地神さんは、草戸川西地区の上ノ丁、中ノ丁、下ノ丁、半坂の四箇所にある。

各地神さんは形が少しずつ違い、比べてみると面白い。

福山市坪生町青木にある地神さんは五角柱に五神が刻まれている(写真)。高さが約60cmで、自然石とは対照的に小さい。

2013年10月

この事業は、福山市協働の
まちづくり基金を活用して
実施しています



福山市坪生町青木にある地神さん

草戸・川西歴史街道 散策路

12 明王院の石垣

草戸の歴史を愛する会

明王院下屋敷の石垣に、珍しい形の石が見られる。扇形、丸（杯または月）、瓢箪（ひょうたん）の形をしている。この石垣が出来た時期は不明だが、石工が同じではないかと思える扇形の石垣が荒谷街道の民家の石垣にみられる（写真1）。荒谷街道は北は石見に通じ、南は草戸の明王院を通り鞆に通じる街道である。この街道は江戸時代には存在していたのは明らかで、したがって、明王院下の石垣も同年代と思える。何故こういう石が積まれたかは不明であるが、石工の心意気ではないかと言われている。

備後地区にある類似の積み石に一宮さん（備後国吉備津神社）がある。（写真2）

この一宮さんは備中国一宮の吉備津神社より分祀されたもので、桃太郎にゆかりのある桃の形をした積石などが見られ、大正時代に構築された。

（写真1） 荒谷街道の石垣



（写真2）

備後国吉備津神社の石垣



2013年10月

この事業は、福山市協働の
まちづくり基金を活用して
実施しています



歴史街道散策路では草戸千軒を今に偲ばせる祭が執り行われていた！

 [video](#)



